
甲状腺炎クリーゼ

A) バセドウ病が重症化したものです。

甲状腺クリーゼとは、甲状腺機能亢進症が重症化した状態のことで、心不全、不整脈、高体温などを伴い、命にかかわる状態のことです。

甲状腺中毒症状に、高熱（体温計では計れないほど）、頻脈（毎分 130 回以上）、循環不全、意識障害、下痢（1 日に 20～30 回）、黄疸などの多臓器障害を合併している時に強く疑います。ひどい場合には死亡します。

診断基準

甲状腺中毒症に追加して、下記の 5 つの症状のうち、中枢神経症状 + 他の症状項目 1 つ以上、または中枢神経症状以外の症状項目 3 つ以上を有する場合は診断となる。

1. 中枢神経症状（不穏、せん妄、精神異常、傾眠、けいれん、昏睡）
2. 発熱（38℃以上）
3. 頻脈（130 回/分以上）

4. 心不全症状

5. 消化器症状（頻回の下痢）

バセドウ病を治療しないで、放置していた人が別の病気の手術を受けたり、感染症や糖尿病などになったときなどに起ります。勝手に薬をやめて、他の部位の手術を受けると危険ですので、気を付けてください。早期発見、早期治療が大切です。

通常**のバセドウ病の治療に加えて、集中治療部での強力な治療を要します。**

最近では、ほとんどみられなくなりました。早めに診断され、治療を受けているためでしょう。